

## 市町村観光担当課長会議 開催結果

### <尾張地域>

- 1 期 日：平成 21 年 10 月 7 日（水）
- 2 場 所：愛知県自治センターB会議室
- 3 出席者：尾張地域市町村担当課長（34 名）
- 4 内 容：観光振興基本計画（スケルトン）を提示し、次のような意見を聴取
  - 外客誘致について、これまでの協議会をどうやって活かすかが重要である。
  - 計画は外客誘致が中心に思える。国内の観光振興をどのように考えているのか。
  - 観光施設費等補助金について、人材育成などソフト面への支援メニューを拡大すべきである。
  - 観光は一市町村だけでは完結しない。周辺の市町村間の連携・ネットワークが重要である。
  - 地域割りにおいて、知多地域が「三河湾」に含まれるのは、知多でまとまって取り組んでいる中で違和感がある。
  - 地域割りをするならば、例えば今年は奥三河、尾張といった重点地域を設けて取組を書いてはどうか。
  - 大規模イベントの実施に際して、県庁部局間の連携をしっかりとってほしい。

### <西三河地域>

- 1 期 日：平成 21 年 9 月 28 日（月）
- 2 場 所：愛知県西三河総合庁舎 402 会議室
- 3 出席者：西三河地域市町担当課長（13 名）
- 4 内 容：観光振興基本計画（スケルトン）を提示し、次のような意見を聴取
  - 計画には具体的な取組の形が見えない。

- 計画には市町村の個々の事業や細かいことは記載する必要はない。ただし、愛知の観光を売り出す上でイメージ戦略は重要である。
- 「産業として観光」を捉える必要性は、年度当初トップから言われている。
- 中国語や韓国語に対応した観光人材育成が課題である。
- 高齢者をターゲットにすべきである。
- 県が音頭をとって新しい観光施設を開発していくことが必要である。
- 市町村の広域連携は、市町村主導では難しい面もあり、県が音頭をとってやるべきである。
- 観光振興における中部国際空港の位置付けや、県との連携によるメリットを整理すべきである。
- 観光鉄道について計画に記載してほしい。その際、名鉄とJR東海との連携が重要である。
- 西三河地域のネットワークが弱い。一体となったPRが必要である。
- 年度ごとに実施する事業を明記すべきである。

### ＜新城設楽地域＞

- 1 期 日：平成21年9月29日（火）
- 2 場 所：愛知県新城設楽総合庁舎第1会議室
- 3 出席者 新城設楽地城市町村担当課長（3名）
- 4 内 容：観光振興基本計画（スケルトン）を提示し、次のような意見を聴取

- 温泉地を今後どのようにしていくのか苦慮している。県が観光客を誘致してくれればありがたい。行政ができるところと、民間がやるところの線引きが難しい。個々の旅館へ支援は行政として限界がある。弱体化し滞納している旅館もあると聞く。トイレなどこれまでかなりやってきたと思うが、愛知は観光のイメージがない中、観光に本当に取り組んでいいのか疑問に思うこともある。温泉地全体をみると効果があったのかどうか懐疑的な面もある。
  
- 文化庁の方針では、重要無形文化財を「無形文化遺産の保護に関する条約」に基づきユネスコへ申請していくこととなっている。重要無形民俗文化財に登録された一期生は4つあり「花祭り」はその一つ。再来年には書類がユネスコに提出される予定。最近はバスツアーも来訪し、「花祭り」は観光面で大きなインパクトになる。
  
- 観光施設支配人の公募は、全国から約180通の応募があった。40歳から60歳までの年齢で募集したが、その枠以外の人から応募があり、反響が大きいことにびっくりしている。職員も採用からメンバーが変わらず、まんねりの面があり、外の風を入れて、新しい動きが出るのではないかと期待している。

### ＜東三河地域＞

- 1 期 日：平成21年9月30日（水）
- 2 場 所：愛知県東三河総合庁舎302会議室
- 3 出席者 東三河地域市担当課長（4名）
- 4 内 容：観光振興基本計画（スケルトン）を提示し、次のような意見を聴取

- 観光に関するデータは漠然としたものが多い。その中で明確な数値目標を出すことはよいことである。県の目標は市町村にとっても参考になるので、データ等を還元してほしい。
  
- 愛知県はインバウンドが弱い。予算が少ない。

- 修学旅行誘致協議会で毎年キャラバン活動を実施している点を踏まえ、修学旅行の誘致の点についても記述すべきである。
- トヨタの工場見学では、教育の面からは受け入れてくれるが、観光の面でも受け入れてもらえる体制を整備すべく、産業界等に働きかけをしてほしい。
- 観光施設費等補助金を使いやすい制度に改正すべきである。特に観光展は、県内で単独で実施する場合には補助対象外となっている。特に名古屋は市場として魅力的であり、効果も期待できると考えている。
- 市でコンシェルジュ検定を実施している。平成 20 年度に 300 名、21 年度に 130 名が合格している。しかしながら、合格した人たちにどういった形で観光に参加してもらおうか悩みである。
- 市民の間に観光意識の向上が不足している感がある。県として機運醸成を考えてほしい。